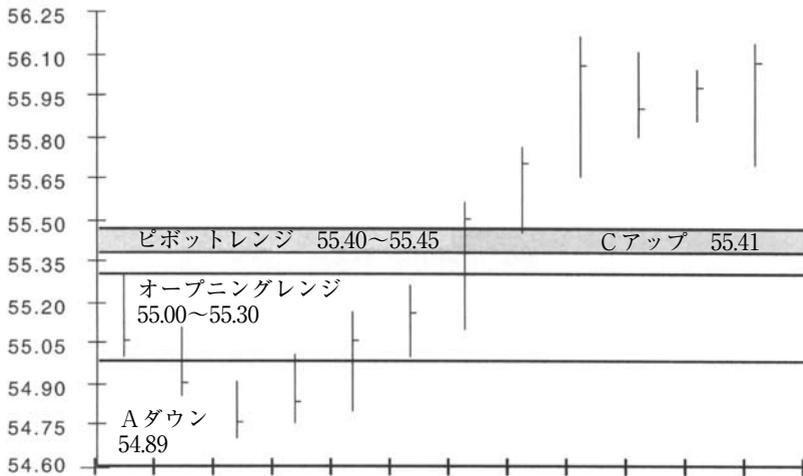


図3.6 Cアップのピボットトレード



ピボットレンジを上抜いたC点は自信を持って買える。そしてピボットレンジの下限に損切り注文を置けばリスクを最小に抑えられる。

反対のシナリオも見ておこう。図3.7の銘柄XYZはオープニングレンジが55.00~55.30、ピボットレンジは54.80~54.85になっている。マーケットは最初は上昇して55.41（オープニングレンジの上限よりも11セント上）でAアップを付け、姿勢は強気になった。

ただ、午後になるとマーケットは下落し始め、さらに売り圧力が高まるとオープニングレンジ（中立）を下に突き抜けて54.89（オープニングレンジの下限から11セント下）でCダウンを付けた。この時点で姿勢は弱気になり、すぐ下には54.80~54.85のピボットレンジが控えている。マーケットはさらに下げ、ピボットレンジの支持線を簡単に下にブレイクするともう自信を持って多くの枚数で空売りを仕